

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4110311331		
法人名	医療法人社団 如水会		
事業所名	グループホーム「安心」いまむら		
所在地	佐賀県鳥栖市轟木町1574番地 (電話) 0942-84-4577		
評価機関名	社団法人 佐賀県社会福祉士会		
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝1丁目1224番2		
訪問調査日	平成 19年9月12日	評価確定日	平成 19年12月3日

【情報提供票より】(平成 19年 8月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14年 8月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	19 人	常勤 8 人, 非常勤 11 人, 常勤換算 6.53 人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	2 階建ての 1階 ~ 2 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円
敷金	有(円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要(8月1日現在)

利用者人数	18 名	男性 4 名	女性 14 名
要介護1	5 名	要介護2	3 名
要介護3	3 名	要介護4	5 名
要介護5	2 名	要支援2	0 名
年齢 平均	86.3 歳	最低	55 歳
		最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団如水会 今村病院・みねクリニック / 医療法人健裕会 古賀内科医院
---------	---

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

鳥栖市街地の交通の便の良い場所に立地するこのホームは、母体となる医療機関が隣接し、入居者の健康管理・緊急時の体制が確立されていた。ホームは奥まった場所に位置し、周囲に民家が立ち並び、地域のなかに溶け込んでいる。また、ホームの外は、散歩道・花壇・菜園が有り入居者の生活環境に潤いを与えていた。医療・福祉が充実された法人の組織のもとでスタッフの高揚を図るための研修等が実施されており、このことが入居者を支援するために大切な倫理観が養成できていると感じられた。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	介護計画書の作成については、新しい管理者の下で新しい様式で検討中であり、試行錯誤の状況であった。施錠、食事の体制についても更なる工夫が望まれる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全員で自己評価に取り組み、サービス向上に取り組まれていた。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	認知症対応型共同生活介護は、地域密着型サービスの拠点として位置づけられているが、地域の代表者、市町村関係者等が参加した会議が現在まで開催されていない状況である。近々開催予定ということなので行政の参加を働きかけ、より質のよいサービスが確保されるために開催に向けた積極的な取り組みが望まれる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	毎月ホーム便りで生活状況を家族に報告されている。ホームへの苦情等の意見箱は玄関に設置されていた。また声は直接経営者に届く体制になっていた。今後経営者とスタッフが一丸となって利用者が安心して暮らせるように努めていかれることを期待したい。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近隣の住民からの野菜の差し入れがあったり、バーベキュー大会の参加を入居者とともにチラシ配布を行い、地域住民への呼びかけをされていた。入居者が地域に継続して暮らし、また、地域との交流を図ることにより、その人らしい生活が営めるような支援を期待したい。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「喜び支え合いを力に」をホーム独自の理念として掲げられていた。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	週2回法人の朝礼が行われ、その時にクレドカード(理念)を参加者全員で読み上げ共有している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の住民から野菜の差し入れなどがあるが、老人会の行事案内について次第に案内が来なくなり疎遠になってしまった。夏祭り(バーベキュー大会)のチラシを配り、声掛けを行ったが、参加者がいなかった。	○	ホームは地域密着型サービスの位置づけに有り、地域のなかで暮らす一員として地域の行事・地域住民との交流が積極的に行われることを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価はスタッフ全員で取り組まれたことを確認した。外部評価の改善事項については、前向きに検討されていた。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	まだ一度も開催されていない状況である。10月に予定されているが、参加者のメンバーに行政が含まれていない。	○	運営推進会議の開催は義務付けられていることであり、またこの会議の趣旨を理解され、主体である市町村に対して積極的な働きかけが必要と思われる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議を含めて市町村との連携が取れていない現状である。	○	地域密着型サービスの主体である市町村とともにサービスの質の向上を図っていくことが必要なため、積極的な連携が求められる。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	個別に生活状況を記入されてるホーム便りが月1回発行されていた。金銭管理、健康状態は必要に応じて家族に報告されていた。また職員の異動時は、直接職員が入居者に伝えられていた。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・苦情箱が玄関に設置されていることを確認。はがきになっており直接経営者に届く仕組みが作られていた。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動時は直接本人が、入居者に対して早めに離職を伝え、ダメージを防ぐ配慮がなされていた。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で計画する教育研修・感染症予防研修等に積極的に参加されていた。法人外部研修については、その都度必要な研修は参加し、カンファレンス時においても職員養成に取り組まれていた。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	鳥栖地区のグループホームの会に加入し交流会に参加されていた。また、法人内の他の事業所との交流もみられ、現在、より一層のサービスの質の向上のためにネットワークづくりに取り組もうとされていた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	人づきあいが苦手な入居者は、2～3時間利用して自宅に戻りホームにいる時間を延ばし、またデイサービスからの入居者はデイとホームを併用しながらホームに馴染んでいけるような工夫がなされていた。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	月1回発行のホーム便りに近況報告・定期的な家族への電話報告を通じて家族への絆を大切に、また、家族と話し合いのうえで些細なことでも決めるようにされていた。イベントは家族参加のもと楽しまれていた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自分の気持ちを伝えることができない入居者においては、表情・言葉・家族の情報から意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画書は作成されていたが、本人や家族の意向が十分に反映されていなかった。	○	介護計画書は、本人・家族の意向を踏まえて作成されることが望まれる。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	見直しは行なわれていたが、現在の書式では目標達成期間がなく、介護計画作成担当者も試行錯誤の状態であった。	○	介護計画の期間を設定し、終了時に見直すとともに、必要に応じ随時の見直しをされることが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療・保健・福祉の機能が充実した法人であり、この多機能性を活かした対応がなされ、柔軟に支援されていた。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者・家族が希望する病院をかかりつけ医とし、定期的な受診がうけられるように支援されていた。法人外の医療機関についても24時間体制で対応してもらえるようになっていた。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	マニュアルについては準備されていた。現在は該当者はいない状態であった。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報等は家族からの同意書を得て慎重な取り扱いがされていた。また一人ひとりの気持ちを大切にされた対応・言葉かけがなされていた。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ペースに合わせたひと時が確保されており、全体的に利用者本位のサービスが提供されていた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	以前は入居者と共に食事の準備をしていたが、入居者の同意が得られず、現在はスタッフが輪番で準備・片付けをされていた。	○	暮らしのなかで食生活は基本であり、準備や後片付け等に入居者が参加できる工夫が求められる。また、職員が食卓を共にし、楽しい食事時間の確保が望まれる。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴されないときには別の日を設定し、無理強いしない対応がなされていた。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ホームの外の散歩道の花の手入れ・部屋の飾りつけなど入居者と共にホームでの生活のなかで、一人ひとりの能力にあった支援がなされていた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日の食事の買い物に、一緒に行くなどされていた。また、ホーム周辺の散歩やドライブなどの機会をつくられていた。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	事故防止のために家族の同意を得て、2階出入口の戸は施錠されていた。	○	身体拘束をなくす取り組みは、その人らしい生活を支援する観点から、安心・安全が確保された鍵をかけない工夫が求められる。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	事業所に隣接する法人の病院があり、災害が発生しても緊急体制が確保され、日頃より避難訓練が実施されていた。しかし、地域への協体制の働きかけはなされていなかった。	○	災害時に地域の協力が得られるように、日頃からの働きかけが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事の献立を母体の病院の管理栄養士が検証し、定期受診の際、主治医の指示を受けられていた。食事チェック表を付けて健康面の管理も行き届いていた。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が長くいる場所の居間は、整理整頓され、居心地よく過ごすことができる空間であった。玄関・階段の踊り場等は置物などで飾られていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	持ち込みの家財道具は、家族と相談のうえ行い、入居者の身体状況に合わせた環境作りがされていた。		